

世界原子力大学(WNU)「夏季研修(SI)」



世界原子力大学(World Nuclear University)は、2003年にロンドンに設立された。「原子力カルネッサンス」を迎えてグローバル化する21世紀の原子力をリードする次代の指導者育成を目指している。

国際原子力機関(IAEA)、OECD 原子力機関(OECD/NEA)、世界原子力協会(WNA)、世界原子力発電事業者協会(WANO)が共同で運営する原子力人材育成プロジェクトである。運営の中心となる事務局(WNUCC)はロンドンのWNA本部内に置かれている。

「夏季研修(Summer Institute)」はその中心的活動である。夏季の6週間、30数ヶ国100名の若者(30歳前後のフェロー)が、国際機関、各国で現在の原子力を取り巻く分野のリーダーから「課題」を聴き、解決への道を一緒に英語で探る。短期だが密度濃い「研修」である。と同時に、「原子力人生」で役立つ「ネットワーク」を作って職場に戻る。国際社会で活躍しようとする人だけでなく、国内でビジネス、研究、原子力行政に携わる人にも国際感覚を育てる「格好の訓練の場」と思える。

公式サイトは[こちら](#)。設立時の[各国機関](#)、[各国代表](#)。

「WNUの狙い」：*「(人類全体の)実験のなかの(原子力人の)実験」*

「産業時代に入り、人口増・エネルギー需要増と資源有限の中で、人類が生き延びるに社会全体が協力できるかの実験に21世紀は入っている。その中で、エネルギー界が、特に原子力界が如何に協力してその果たすべき役割を担うか、これからの指導者を育てることができるかの実験がWNU、その実験の成否は近い将来、諸君が示すのだ」。

(WNU 理事長 John Ritch 氏、SI 2009 冒頭での講演から要約引用)